十和田市現代美術館について

質問　十和田市現代美術館設置には、骨組みが出来上がってからも大変な反対、批判があったが、このことをどのように理解へ導くのか伺いたい。

答弁　当美術館設置については、その過程において賛否両論があったが、長期的なまちづくりの視点に立って進めてきたものである。施設の必要性に疑問を抱いている方に対しても理解していただけるよう、この美術館の成果をしっかりと出していくことが大切だと思っている。完成して終わりではなく、完成したときからが本当のスタートであると考える。

質問　平成二十年四月オープンの当美術館について、より多くの来場者を迎えるための周知及び情報発信の手段について伺いたい。

答弁　美術館の開館を周知するパンフレットを十一月に作成し、全国に広く配布したところである。県内のマスコミに加え、中央のマスコミからの問い合わせも増加しており、建築系の雑誌やアート系の雑誌のほかに一般向けの総合情報誌にも掲載され、旅行雑誌等からの記事掲載の申し込みもきている。県外の旅行エージェントへ向けて現代美術館のPRを継続し、全国的にも例がない建築とアートが一体となった美術館という本館の特徴を生かし、今後とも開館に向けて一層のアピールに努めたい。

急ピッチで工事が進む十和田市現代美術館

市の広報について

質問　月二回の発行を一回に変更したが、住民の多くは、市からのお知らせをこの広報で知る方がほとんどと思われることなどから、月二回の発行に戻す考えはないか伺いたい。

答弁　「広報とわだ」の発行回数については、集中改革プランに基づく事務事業の見直し項目となっていることから、月一回としたものであるが、発行回数を減らしても一回の発行ページ数を増やすことにより、市民にお知らせする情報量は確保していると考える。一方、回数を減らしたことにより、行政連絡員の報酬や行政連絡員宅に配付している広報委託料等がおおむね半減するなどの経費の節減が大幅に図られている。また、回数が減ったことに対しての特段の苦情はないことから、月二回に戻すという考えはない。

地域県民局との連携について

質問　平成十九年四月に設置された地域県民局との連携状況はどのようになっているのか伺いたい。

答弁　県民局に新たに設けられた地域連携部を初め、各部との連携は順調に行われている。具体的には、台湾からの修学旅行誘致を促進することを目的としたグリーンツーリズム振興対策事業、国内で初めてのセーフコミュニティの認証について支援をいただいている。さらに、地域の特性を生かした地域づくりを進めるために、県民局が設置した上北の元気結集協議会に市も参加し、上北の元気づくりのための検討を行っている。今後とも県民局との連携を強化するとともに、そのノウハウを最大限に活用しながら地域づくりを進めていきたい。

そば作りに挑戦する台湾からきた中学生の皆さん

通学区域について

質問　少子化を迎え、小規模校、複式学級が多くなってきているが、学区外通学許可基準について伺いたい。

　また、部活動を目的とした通学区域の自由化について、どのように考えるか伺いたい。

答弁　住所地を基準として学校ごとに通学区域を定め、就学すべき学校を指定しているが、家庭の事情や身体的な事情などがあり、教育的な配慮が必要と認められる場合など、十和田市学校の指定変更に関する認定規程により、一定の認定要件を設け、該当する場合について指定校を変更することを認める弾力的な運用を図っているところである。

　部活動のための通学区域の自由化については、小規模校ではより一層小規模校を加速させてしまうなどが懸念されるため、現状においては指定変更の要件の中に部活動を理由とした要件を設けることは考えていない。

観光経済

グリーンツーリズムによる国際交流について

質問　国際交流基本計画を策定し、また、グリーンツーリズム推進による観光で、県内初となる台湾からの修学旅行誘致が発表されたが、今後のグリーンツーリズムによる国際交流の考え方について伺いたい。

答弁　観光基本計画において、観光の課題として国際観光都市づくりの推進を掲げており、外国人観光客の受け入れ推進の方向が示されている。その中で近年経済成長の著しい台湾、韓国、中国などアジアからの観光客の増加が進んでいる現状が認識されており、このことから、当市のすぐれた自然や温泉、歴史、文化をアピールするとともに、豊富な農業資源等を生かしたグリーンツーリズムを推進することにより、学校交流、生活体験などの魅力ある修学旅行を提案することが可能であり、国際交流の新たな切り口になるものと考える。

外国人観光客について

質問　外国からの観光客を迎える体制や整備状況について伺いたい。

答弁　観光PR用の十和田ガイドマップは、韓国語、中国語、英語版を作成するとともに、韓国語、中国語、英語のホームページを開設するため、現在その翻訳事業に取り組んでいる。また、アジア各国の文化や生活習慣の違い及び接客の仕方を国際化適応研修で行うとともに、ガイドエキスパート育成研修などを実施し、最近急増しているアジアからの観光客を初め、外国人観光客の受け入れ態勢を充実させていきたい。